



2018



CHARTERED SEPT.11.1953

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2018 - 19 会長主題

地元とつながろう

あずさ部長	廣瀬 健 (甲府 21)	「未来はそれに備える人のものである」
東日本区理事	宮内友弥 (東京武蔵野多摩)	「為せば、成る」
アジア太平洋地域会長	田中博之 (東京多摩みなみ)	“ Action ”
国際会長	Moon Sang Bong (韓国)	“ Yes, we can change ” 「私たちは変えられる」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 尾内昌吉 / 書記 尾内昌吉 / 会計 中村孝誠
 直前会長 上妻英夫 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 星住秀一

2018年12月例会
 <EMC/Mの月>

と き **12月12日(水) 13:00-15:00**
 と ころ **サイゼリヤ 西早稲田店**
TEL 03-3202-8600
 地下鉄東西線「早稲田」駅から徒歩4分
 会 費 500円

年末懇親会

報告・連絡事項

ワイズメンズクラブ モットー

『 強い義務感をもとう
 義務はすべての権利に伴う 』

“ To acknowledge the duty
 that accompanies every right ”

12月 HAPPY BIRTHDAY

今月の聖句

イザヤ書 7:14

それゆえ、わたしの主が御自ら^{おんみずか}
 あなたたちにするしを与えられる。
 見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み
 その名をインマヌエルと呼ぶ。

マタイによる福音書 1:19-21

夫ヨセフは正しい人であったので、マリアの
 ことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を
 切ろうと決心した。このように考えていると、
 主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子
 ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。
 マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのであ
 る。マリアは男の子を産む。その子をイエスと
 名付けなさい。この子は自分の民を罪から救う
 からである。」

会費の納入は、会計(中村君)への納入または
 下記銀行口座への振込みをお願いします。
三菱 UFJ 銀行 高田馬場駅前支店
普通 3548431 「東京山手ワイズメンズクラブ」

11月報告

会員在籍数		13名
例会出席者	メ ン	8名
	メ ネット	1名
会員出席率		62%
ゲスト・ビジター		2名
		合計 10名
ニコニコ	4,735円	(累計 14,515円)
B F	国内切手 -g	外国切手 -g



11 月例会報告

とき：11月20日（火）14：30～16：30
 ところ：早稲田奉仕園セミナーハウス 102 号室
 出席者：浅羽、飯島（愛）、尾内、尾内（規）
 機能、中村、星住、増野 8名
 ゲスト・ビジター
 挟土（はさど）沙詠（さえ）さん
 （J-FUN（ジエーフアン）ユース、
 上智大学生）
 押山（おしやま）愛紀子（あきこ）さん
 （山手センター） 2名
 合計 10名

10月に引き続いて早稲田奉仕園での例会開催となった。

開会に先立って、11月8日夕刻に急性心不全のため召天された大先輩の奈良信さんを偲んで黙祷をささげた。

11月ハッピーバースデーは中村さんを祝った。「やっと77歳になりました」と中村さんははてしていました。

この日のメインテーマは「山手クラブの夢を語ろう」だが、そのテーマに入る前に、かねてから懸案になっていたJ-FUNユースの学生が実施している難民の子どもたちへの学習支援活動について、同会の挟土さんから映写される映像を見ながらお話をお聞きした。

<要旨>

J-FUN ユースは、「学生にもできる難民支援、学生だからできる難民支援 ～手とてとテ～」を掲げて、日本を難民が暮らしやすい社会にすることを目指している。会員は約20人。

SNSのFacebookに「時事で難民」という情報を流して、学生の空き時間に難民に触れてふれてもらっている。

活動は「学習教室」で、毎週土曜日に早稲田奉仕園セミナーハウスの部屋を借りて、ミャンマーベトナム、ネパールなどの難民2世の子供たちの学習指導をしている。

6月20日「世界難民の日」のイベントや学習教室、勉強会の先生のお礼の費用のために、資金援助を必要としている。

.....

次に、「山手クラブの夢を語ろう」のテーマに移った。

まず浅羽さんから、10月例会で今後の山手クラブの活動に「国際」を一つのキーワードにしようという案が出されたことを受けて、「国際協力色を出す」浅羽案の資料が出された。

世の中がグローバル化する中で、「地球市民」としての生き方が必要だ。大上段にではなく当クラブの現状やキャパシティを考慮した上で、西早稲田地区での国際性を考えよう、YMCAといっしょに青少年から高齢者までを含む地域住民が国際交流・国際理解・他文化共生を体験する機会を作りたい、そしてワイズの活性化につなげたい、とい

う構想である。

どんな活動が可能か。10項目の例が提示されていて、その中に、「地域で国際協力活動を進めている若者グループを支援する」という項目もある。

今後、さらに話し合いを進めることになった。

ヨルダン会 (11月)

日時 11月28日(水) 14:30~16:00

場所 華屋与兵衛

出席 浅羽、中村、尾内

議事

1 12月例会

日時: 12月12日(水) 13:00~15:00

場所: サイゼリア

会費: ¥500

懇親会として行い、ニコニコはなし。

なお、12月のヨルダン会は休会とする。

2 J-FUNユース支援の件

挟土さんのプレゼンテーションは大変良かった。今後はCS活動の一環として考えてはどうか。桐生さんとも話し合い今後どうするか、山手センターの使用、年間で1万円程度の支援を会員の賛成があれば行ってはどうかなど検討した。

3 奈良 信さんを偲ぶ

山手クラブとして、あるいは東日本区として同氏を偲ぶ意味で何らかの基金を募ってはどうか、次回の例会で検討する事とした。

以上

おたより (11月)

<上妻英夫さん> 「配ばり柿 渋で妻たち賑わえり」 街路上の柿が今年は大豊作、近所に配ってみた。一応渋いと言って渡したのであるが(甘柿も半分以上ある)、細君たちの楽しい話題(渋抜き方法など)に・・・

<飯島愛子さん> 銀座教会1階の東京福音センターで、12月13日(木)から開かれるクリスマスアート2019展に、作品を出展します。

12月13日—25日(17日は休み)

1月6日—15日(9日は休み)

開催時間は12:30—19:00

<飯野毅与志さん> 山手ワイズメンズクラブを無くすことなく、来年新しい平成の次の時代の

山手ワイズとして八王子クラブのように若い大学生にも参加してもらえるように、新しいプログラムを計画してやっていってほしいです。

<増野 肇さん> 今月も昼間ですか。ありがとうございます。少しおくれるかもしれませんが参加します。

.....

訃報

奈良 信さん 東京山手クラブのチャーターメンバーであった大先輩の奈良 信さんが11月8日(木)夕刻に急性心不全のため召天されました。

95歳でした。15日(木)に家族葬が執り行われ、21日(水)に早稲田教会において教会葬が執り行われました。(5ページ以下に追悼記事掲載)

金本佐紀子さん(金本伸二郎さんメネット)12月2日朝、召天されました。64歳でした。

葬儀は、12月7日(金)13:30から、日本基督教団 武蔵野教会(豊島区目白5-16-3、電話03-3953-8344)で行われます。

YMCAニュース

1. 年末年始閉館のお知らせ

山手センターは12月25日(日)~1月8日(日)まで閉館となります。

また、耐震工事のため12月25日~30日までは停電となります。

2. 耐震工事進捗

耐震補強工事も概ね終了し、現在は老朽化した箇所への補修工事を中心に進められています。

また、傷んだ箇所が多いため、床や壁、天井もきれいにします。照明もLEDにすべて取り換え、環境に優しい建物になります。1月末には現在の仮事務所から本来の事務所に移動し、1階ロビー、ホールの工事がはじまります。ご迷惑をおかけしておりますが、引き続きのご支援をお願いいたします。

今年は工事のため例会の場所等で、ご協力をいただきありがとうございました。

クリスマス会も開催できませんでしたが、来年は新しい会館で皆さんとお祝いできればと思います。どうぞ温かなクリスマスシーズン、新年をお迎えください。(星住秀一)

藤井寛敏 元国際会長

ボランティア賞受賞 祝賀会

中村孝誠

藤井元国際会長のボランティア賞授賞祝賀会が11月4日(日)青山のアイビーホールで開催され総勢80名が集い、山手クラブから5名(浅羽・尾内夫妻・上妻・中村)が出席しました。



江東クラブ会長の挨拶で始まり東日本区直前理事栗本治朗ワイズ及び元日本区理事森田恵三ワイズより祝辞を頂きました。このボランティア賞は藤井ご夫妻の2人の功績を称えるものであるとのことでした。続いて次期東日本区理事の山田敏明ワイズの乾杯により祝宴となり、女性5人による優しいメロディーが演奏され和やかな中、藤井夫妻が各テーブルを回り、出席者に挨拶。その後「ワイズは楽しー40年の軌跡ー」と題し自らスライドを使用しワイズに入会するときの状況から国際会長になり世界を回って多くの方々と接し大変楽しい年月を過ごされた様子が紹介されました。ワイズに入り藤井君の人生の宝になったようです。宴たけなわの中記念品を渡す段となり壇上に藤井夫妻が呼ばれ記念品(真っ赤なガウン)を受け取りその場で身に付けさせられ、ブランデーを片手に何時もの「カモン ガッツ!!」と拳を振り上げ参加者全員で場を盛り上げ、最後は藤井君からお礼の言葉が述べられ全員写真を撮ってお開きとなりました。

藤井君のこの40年間の努力は私には考えられない程のもので長い間休むことなく夫婦で続けられたことに感心するばかりです。これからも体に気を付けてワイズ奉仕頑張ってください。

.....

ボランティア賞(正式にはThe Harry M. Ballatyne Award)は、長年ワイズ運動に尽くしたメンバー、メネットに送られるワイズ最高の荣誉ある個人賞。1922年創立のワイズメンズクラブ国際協会のワイズ連絡主事を務めたカナダYMCAの全国協議会の総主事であったハリー・エム・ボランティア氏が引退後、1957年に特別称賞に値するワイズマンのために提供したのが始まり。通常1年に1名国際大会またはそれに代わる会の席上で発表される。

日本に於ける受賞者

- 1966年 元日本区理事 奈良 傳 氏 (大阪)
- 1982年 元国際会長 鈴木健介 氏 (大阪センテナリアル)
- 1987年 元国際会長 竹内敏郎 氏 (熱海グローリー)
- 1995年 元日本区理事 田中 真 氏 (東京)
- 2006年 元アジア地域会長 今村一之 氏 (大阪土佐堀)
- 2010年 元国際副会長 奈良 信 氏 (東京山手)
- 2018年 元国際会長 藤井寛敏 氏 (東京江東)

.....



奈良 信さんを偲んで

東京山手クラブのチャーターメンバーで長い年月にわたりワイズ運動に多大の貢献をされた敬愛する大先輩の奈良 信さんが11月8日(木)夕刻に急性心不全のため召天されました。95歳でした。15日(木)に家族葬が執り行われ、21日(水)に早稲田教会において教会葬が執り行われました。教会葬には奈良信さんを敬愛する多くのYMCA、ワイズメンズクラブ関係者が参列しました。そして、葬儀後にお茶の会がもたれて、奈良さんの遺影の前で奈良さんを偲びつつ語り合いました。



古賀博早稲田教会牧師(中央)と共に

古賀博牧師の式辞より (抜粋)

“教会をわが基地として生きてきました。(加えて)少年の日から、…広い立場のYMCAの世界でも育てられてきた私は、信仰と文化を論じ考えた学生YMCAの時代を経てからは、ことさらに望外な程迄、生涯にも及ぶ多くの優れた同信の師や先輩・友人と

の交わりを、時々叶って与えられて参りました”。

当教会の創立60周年記念誌(1999年)にこう記しておいでの方の奈良 信さん。教会、早稲田奉仕園、友愛学舎、早大YMCA及び学生YMCA、都市YMCA、ワイズメンズクラブなどを深く・強く愛して、95年の人生を歩み通されました。

この間、三人の息子さんが協力して、特に同居の三男の恵さんをご両親のお世話を自宅にて丁寧に行っておいでになりました。しかし次第にお一人でご両親を看ることは難しくなり、奈良 信さんは自宅近くの江古田の森(介護老人保健施設)に移られ、2017年3月よりそこでの生活を続けてこられました。

居室からは周辺の森の木々が間近に見え、豊かな自然に囲まれていることを喜んでいらっしゃいました。この施設にて今年の夏まで比較的、元気に過ごされました。10月半ばに中野江古田病院への入院となり、肺炎に罹患との診断を受けられます。11月8日(木)夕刻6時25分、急性心不全での召天。地上での95年の生涯でいらっしゃいました。

蝶ネクタイがトレードマーク、明るく気さくに誰とでも親しくなり、豊かな教養と幅広い関心を有し、常にユーモアをもって語らい、文学と音楽を深く深く愛しておいでの方でした。極めつけのお話好きで、その独特の語り口は「奈良節」とも言われ、かつそのお話はエンドレスだと言われました。確かに一度話し出したら止まらない、一つのことを語られるのに、その背景や自分との関わりを含めて壮大な展開となる、そのような語り口を特徴としておいでの方でした。

幅広く多様な人間関係を有し、YMCAやワイズメンズクラブを通じてそれは世界、特にアジア地域へも豊かに広がり世界中に友人がいらっしゃいました。

教会の記念誌に寄せた文章には、またイスラエルを旅した時のことも記されています。

“イメージ通りの夕暮れのエマオの道を実際に歩いた時、かの日、語り論じ合う若者に近づいて、共に語りかけ、その心を燃え立たせて下さった復活のイエスが、私の道にも近づき語って下さるのを覚えしました。福音書に生きたイエスを慕い求め、これを心に焼き付ける者の心には、必ず近付き、共に宿って下さるのが復活のイエスなのです”。

ルカによる福音書に残る「エマオ途上の物語」を心に置いて記されたこの一文。ここには、奈良信さんを長年に亘り突き動かしてきた原動力というべきものが凝縮されて、語り出されているように感じま

した。

本日の葬儀の序詞は、建築家である奈良 信さんを憶えて、コリントの信徒への手紙一の3章9節以下といたしました。

パウロは、自らを熟練した建築家に喩えて、神の恵みによって教会共同体の土台・基を据えたと語っています。このようなパウロの信仰に基づく告白と同質の想いを、私たちは奈良 信さんの活動を通じてもまた受け取ることができるのではないのでしょうか。

奈良さんは、建築家としてその生涯に600を超す建築物、個人の住宅や、そして教会や学校などを建て上げられました。熟練した建築家として、彼は実際に建築物を建て上げる働きを、仕事の側面において実に精力的に進められたのです。

同時に、教会や学生YMCAや都市YMCA、ワイズメンズクラブなどの共同体の形成に力を注ぎ、一つひとつの場に熱心に関わってこられました。

彼の祈り・願いとは、イエス・キリストを土台とした豊かで自由な共同体を建て上げることであり、それぞれの場を通じて、イエス・キリストを土台として真実に生きようとする若者たち、人間を育成することだったのではないのでしょうか。

イエス・キリストを愛してやまなかった奈良 信さんを、神はその強い御腕でもって抱きとめ、永遠の平安へと導き入れてくださったと信じます。天の御国にて、先に天に昇られたご家族、師や先達たち、また友人たちと再会を許され、喜びつつエンドレストークを楽しく交わしておられる、そのことを信じます。

.....

奈良信さんの生涯

奈良信さんは1922（大正11）年12月22日に、日本のワイズメンズ運動の創始者である奈良 傳（つたえ）さんの長男として豊中で誕生しました。（同年11月にワイズメンズクラブ国際協会が成立しました）

幼少期から教会学校に通い、大阪Y、神戸Yのキャンプに参加していました。北野中学を卒業して、1941（昭和16）年に第一早稲田高等学院に入学すると早稲田奉仕園友愛学舎に入舎して早稲田教会に出席、学徒出陣のあった1943（昭和18）年9月に早稲田大学理工学部建築学科に入り造形賞をもらいました。早大YMCAの忠実なメンバーでした。そして1945（昭和20）年10月、戦後初のキリスト教学生

集会の開催に尽力し、これがその後の学生YMCA・YWCA運動の起点となりました。

1946年9月に大学を卒業、大阪に戻り、1949年10月に早稲田教会の佐藤玲子さんとご結婚、1950年4月～53年夏にかけてはヴォーリス建築事務所に勤めてICUの建設にも携わりました。その後、54年2月に奈良信建築設計事務所を設立、教会建築を中心に生涯に600余の建築の設計に関わりました。私たちの身近なところでは、山手センター、江東センター、早大YMCA信愛学舎、東京都民教会などがあります。

本業は建築設計・監理なのですが、奈良さんは関心が多方面に向いていて、自由な生き方をしたい方でしたから、教会、YMCA、ワイズメンズクラブとどんどん人とのつながりが広がって行きました。

1946～49年に大阪YMCA会員、1952年以降には東京YMCA会員となりました。そして52年には山手 brunch の設立委員になり、52～80年にかけては山手 brunch 委員、さらに山手 brunch 代表理事、東京YMCA理事をつとめ、1998年に「名誉会員」に推挙されました。

76年に日本YMCA同盟が採択した「日本YMCA基本原則」の起草委員長は奈良さんでした（現行「基本原則」は1996年採択）。1994年に「青少年奉仕賞」を同盟から受けました。

53年9月11日にチャーターした東京山手ワイズメンズクラブでは、最年少（30歳）チャーターメンバーになりました。58年には東京山手クラブ第4代会長として第1回山中家族キャンプを開催、山手クラブの名物プログラムになりました。62/63年にはワイズメンズクラブ東部部長、1973/74年度の第19代日本区理事になったのは50歳の時でした。そして76/77年度には国際副会長をつとめました。

2006年、（財）日本キリスト教文化協会から、「キリスト教功労者」顕彰を受けました。続いて2010年8月、ワイズメンズクラブの横浜国際大会でワイズメン最高の栄誉ある賞「バランタイム賞」を受賞しました。そして、2013年9月、東京山手クラブチャーター60周年を祝ったのは90歳の時でした。2015年6月まで東京山手クラブの現役会員であり、18年6月までは休会会員でした。

（徳久俊彦さん作成の「奈良信さんの生涯」を参考にしました。 機能文夫）



ボランティア賞を受けた時の奈良信さん

奈良さんの本音

浅羽俊一郎

奈良さんはその独特な愛嬌あるお顔と蝶ネクタイで、お人柄を知る前から印象に残る人でした。大分経って彼のYMCAとワイズへの貢献を知ることになりました。私が山手クラブに入ってから親しく話しかけても下さいましたが、初めてじっくりお話したのは、私がクラブ会長に就任し、大先輩から直接助言を頂こうと、奈良さん行きつけの高田馬場駅近くの談話室においてでした。2時間色々話してくださいました。多くの諸先輩方にもお馴染みの子供の頃のYMCA体験を一对一で語ってくれたことに、その内容以上にお人柄にとってもひかれました。ただ、一緒に活動するという体験が無かったことは心残りです。

さて山手のブリテンに一文を書くことになって手元にある少ないわずかな文献を漁っていると、諸先輩方の発言を掲載した古いYMCAの冊子に彼の発言を見つけました。ここに紹介したいと思います。早稲田大学の学YOBから東京YMCAの会員になり、山手YMCAに関わった頃について話されています。

「その頃はワイズメンズクラブに対し、軽薄な会という感じをもっていたのですが、山手にもワイズメンズクラブをつくるので入会しろと、それは熱心に誘われたので、いやと云えずにワイズメンズクラブにも加わりました。このようなことが私の人生を変えました。山手YMCAで、いろいろ文句を言ったり批判を言ったので

すが『あなたがそれをやれ』ということで、家族キャンプを実施しました。いろいろ考えてみると、聖書のピリピ人への手紙に書いてあるように、変貌の教会と申しましょうか、神の形を堅く保とうと思わないで、下僕となるという事です。」

サーバント・リーダー、奈良さんの本音でしょう。
(東京山手クラブ会長)

.....

奈良さんの残した言葉から

奈良さんが日本区理事の時の「日本区報」を探してみたら、ありました。1973年10月発行のNo.90、74年6月発行のNo.95号でした。

90号の巻頭に、奈良理事の「ワイズメンの二本の骨」という一文があります。ワイズの新国際憲法の作成に直接参与した奈良さんが、その憲法を精神を奈良さんらしい言葉で解説したものです。二本の柱というのは、InternationalとLoyaltyです。その文中の一部をとりだしました。

「此のInternationalは通常国際的と訳され、何となく西洋風と云う風に受け取られて居るあれとは丸反対のInternationalであります。それは宗教、人種、国籍などを異にするお互いが、然も共通した一つの大地の上で共に生きる地球家族なのだ、という共感の表現であり、従って、夫々の異なる固有性は、相互離反や差別の契機とはならず、むしろ認め合い、学び合い、敬愛し合う間柄へと発展して行く契機に他ならないと承知する運動であります。従って私共は、Internationalな運動なるが故に反って、自分のクラブが本当に自分の地域に根差し、自分達にピッタリと来るクラブである様、クラブ形成に努力するのであり、かかるクラブこそが、此の憲法の主権者であります。そして、かかるクラブがお互いに知り合い、学び合う機会を得る為に、各個クラブは部や区を形成して居るのでありまして、部長も理事も国際会長もその世話役にすぎません。」

「他の一つはYMCAに対するLoyalty(忠誠心)であります。誰から頼まれなくとも、今曲り角に立つYMCAの事を心から心配し、責任を感じ、個人としても、クラブとしても、頼りになる担い手となろうではないか、と言うのがワイズメンの運動です。」

今読んでも、これからの山手クラブを考える上で、参考になる言葉だと思い、採録してみました。

(F・K)